

札幌市立手稲北小学校の取組【環境：地域・外部人材活用】

1 研究のねらい

本校では、1975 年より 42 年間にわたって、スイカづくりに取り組んでいる。この活動は、地域の特産であるサッポロスイカを栽培している地域の農業を営む方の「子どもにスイカを食べさせたい。」「子どもに農業を体験させたい。」という願いから始まった。現在は、広さ 28 アールの学校農園「むぎわらぼうし」において、全学年がスイカ等の栽培活動を行っている。地域の農業を営む方々の御協力をいただき、畑を耕していただいたり、子どもに栽培方法を指導助言していただいたりしながら、活動している。1・2 年生は生活科、3～6 年生は総合的な学習「ちえのわ」の年間計画の中に位置付け、発達段階に応じた目標を設定して活動を進めている。それぞれの学年で収穫した野菜は、食したり、家庭科の学習の調理実習に活用したりするとともに、食を通した他学年の交流も行っている。また、その活動の中で、6 年生がスイカの栽培に関わり、その活動のまとめとして「北小スイカまつり」として、全校で味わう活動を行っている。さらに、収穫した野菜を地域の菓子店へ提供して、地域の菓子店とのコラボレーションも継続的に行っている。こうした野菜等を育てて収穫する活動を通して、子どもに農業を中心としながら発展した地域の歴史を実感させるとともに、作物を育てて収穫する喜びと自然の恵みへの感謝の気持ちを育んでいきたいと考えている。



2 取組内容

(1) スイカづくり体験を通して地域への思いが生まれる

①自分たちでスイカを育てる

年度初めに、担当者と 6 年生の担任、そして協力していただいている地域の農家の方と、収穫までの活動を明確にするために年間計画を作成している。活動は、雪が解けた後に、農地をトラクターで耕してもらい肥料を散布していただくことから始まる。苗は農家からいただき、5 月、6 年生がマルチを敷き苗を 200 本植え、最後にビニルを被せるという最初の活動を行う。子どもは、苗を 1 本 1 本丁寧に植えながら、大きな実を付けてほしいという願いと期待感を膨らませていた。苗が育ち、被せていたビニルをはがす作業の時には、農家の方から散水や雑草抜き等、栽培の仕方について、丁寧に指導していただいた。

その後、子どもは、つるが伸び、実を付けてきたなどと、スイカの生長を実感し、喜びを感じていった。

②喜びのある収穫とスイカまつり

6 年生は、「北小スイカまつり」の時期に合わせて、大きく、生長したスイカを感動とともに収穫した。「北小スイカまつり」は、6 年生が収穫したスイカを自分たちが切り分けて、



5年生以下の子どもに振舞い、地域の特産物を味わうとともに、収穫の喜びを全校で分かち合う集会である。協力していただいた方にも、子どもの様子を見ていただいている。今年はスイカを約100個を使用した。この活動を通して自然の恵みに感謝し作物を育てる喜びを味わっている。



(2) 地域の洋菓子店とのコラボレーション

①自分たちで育てた野菜を食材に

校区にある洋菓子店では、子どもが育てたカボチャを食材に利用して商品を提供している。この洋菓子店は、地元産にもこだわり、道産の材料を用いている。5年前から子どもの育てたカボチャ、サツマイモ、ジャガイモなどを提供し、さまざまな商品を製造していただいている。今年も、商品となったカボチャプリンやパウンドケーキなどを持ってきてくださり、子どもは商品になるまでの話を聞かせていただきながら、その喜びを実感していた。



②子どものキャリア教育にも活用



毎年、洋菓子店のパティシエに来校していただき、6年生の前でケーキ作りを実践していただいている。パティシエは、子どもの人気職業ランキングにも出てきており、子どもの興味関心も高く、さまざまな質問が出されるが、お店の方は、丁寧に答えてくれた。子どもにとって職業が身近に感じられるとともに、将来への夢が具体化される良い機会となっている。

3 成果と課題

(1) 成果

栽培活動は食育としての役割も担う。各学年では、総合的な学習の時間、家庭科や生活科の時間を利用し、栽培された野菜を材料に調理の活動を行った。自分が育てた作物を実際に調理して食べるという活動を通して、食に対する興味関心をもたせることができ、嫌いなものが食べられるようになったり、バランスの良い食事を心がけるきっかけともなったりしている。また、高学年を中心に、地域の先人の歩みや食を生産することの大切さと大変さを実感できるようにもなった。このように、栽培活動はその他の教科や活動へと広がりをもたせることができた。

(2) 課題

全ては広い学校農園と地域の人々の協力があってこそ可能となる活動である。全校体制で取り組むとともに、教育課程の核として位置付けることで、子どもに地域への愛着をもたせるだけでなく、仲間と一緒に協力することや継続して活動することの大切さを実感させていくことが大切である。今後も全校の体制を整え、組織的かつ計画的に取り組めるようにしていく。